

5 畜 産

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 畜舎・家畜の暑熱対策</p>	<p>(今月の作業のポイント) 暑熱対策</p> <p>本格的に気温が高くなっていくことから、家畜は飲水量増加や飼料摂取量減少により生産性の低下や発情遅延や不受胎等の繁殖障害、下痢等の疾病等が多発する。暑熱対策は、それぞれの対策を組み合わせることによって効果が高まるので、電力需給対策も考慮して、以下の対策を可能な限り実施する。</p> <p>ア 断熱・遮光 畜舎内に入り込む最大の熱は太陽光である。石灰や白ペンキで屋根を塗ったり、コモをかけるなど、屋根の反射や断熱性を高め、熱量を押さえる。 地下水や清水など水の豊富なところでは、スプリンクラーの設置が効果的である。その他では、軒の延長や庇陰樹・よし張りによって熱の侵入を防止する。</p> <p>イ 送風・換気 扇風機やダクトを用い、細霧装置や散水装置を組み合わせることで牛や豚に直接風を当てることで、防暑効果が高まる。また、舎内のほこりやアンモニアガス等が、換気することによって除去され、舎内の衛生対策につながる。 暑い時は、家畜の飲水量が増え軟便となり、舎内湿度が高くなるため、早めに除糞する。また、給水器・排水等の水漏れも湿度を高めるので修理する。</p> <p>ウ 新鮮な飼料・水の給与 食べ残しの飼料はこまめに取り除き、飼料の変敗に注意し、朝・夕の涼しい時刻に飼料を給与する。飲水は、井戸水等の新鮮で冷たい水を与える。また、ミネラル・ビタミン類の十分な補給を行なう。 乳牛では、消化性の高い良質粗飼料を給与し、体温上昇を抑える。</p> <p>エ 密飼い防止 肥育牛、肥育豚、肉用鶏の飼養密度は、温度、湿度及び換気の状態等により異なるが、密飼いを避け、過密によるストレスは軽減する。また、牛では夜間の屋外放飼により、牛の呼吸数・体温の上昇を抑えることができる。</p>

(作成 畜産研究センター)